

答申にあたって(案)

東久留米市長期総合計画基本構想審議会は、東久留米市が令和３年度から１０カ年を目標年次とする第５次長期総合計画を策定するにあたり、平成３１年２月１日に東久留米市長より委嘱を受け、公募市民、学識経験者、公共的団体等の代表者からなる総勢１５名の委員により、審議を重ねてまいりました。この間、アンケート調査、ワークショップ、市民フォーラム、パブリックコメント等を通じて、できる限り多くの市民意見を取り入れるべく努めながら、全１２回の審議を経て、ここに本答申を取りまとめました。

東久留米市をとりまく社会情勢は大きく変動しています。少子高齢化や人口減少などの状況に対し、行政に求められる課題はますます多様化、複雑化してきており、限られた資源を効果的・効率的に活用するなかで持続可能な行政運営を図っていくことが求められています。IoTやAI等の技術革新のみならず、自然災害の頻発・激甚化や新たな感染症の感染拡大は、社会全体に行動変容を迫るとともに、今後の地域社会、地域経済のあり方や私たちの生活様式を大きく変えていくことが予想されます。こうしたなか、長期的な視点と広い視野を有する総合計画は、自治体経営の進むべき指針を示すものとして、増々重要な役割を担うものとなってくるでしょう。

本審議会においては、現在の東久留米市を取り巻く諸状況の把握に始まり、現状と今後の課題を踏まえ、これからのまちづくりの目指すべき方向性などについて、議論してまいりました。そして、今まで培ってきた東久留米のイメージを継承しながらも、未来に希望をもって一人ひとりがいきいきと暮らし、人々が行き交い、まちが潤い、魅力あふれるまちとなることをめざして、まちの将来像を「みんないきいき 活力あふれる 湧水のまち 東久留米」としました。

現在、新型コロナウイルスの感染は世界中で広がっており、その影響により、今後の社会経済情勢が大きく変化していくことが想定されます。今後策定が予定されている基本計画では、たとえ情勢変化によって厳しい状況が続くとしても、計画の目標達成に向けた取組みが創意工夫のもとになされていくよう、市としての方向性を示すものとなることを期待します。最後に、さまざまなご意見等をお寄せくださいました市民の皆様から感謝を申し上げるとともに、本答申に描かれたまちの将来像の実現に向けて「みんなが主役のまちづくり」が展開されていきますよう、大いに期待しております。

東久留米市長期総合計画基本構想審議会

会 長 奥 真美

副会長 渋井 信和

委 員	有賀 康明	梅本 富士子	遠藤 清美
	大山 裕視	岸 伊佐雄	斎藤 利之
	杉原 弘恭	中路 真由美	松本 誠一
	三浦 朋子	水戸部 啓一	矢部 晶代
	若林 弘子		

(50音順)